

**製品名: ミオジェニンウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14337**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、その他
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	39kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MYOG
別名	MYOG; BHLHC3; MYF4; Myogenin; Class C basic helix-loop-helix protein 3; bHLHc3; Myogenic factor 4; Myf-4
遺伝子 ID	4656.0
SwissProt ID	P15173
免疫原	抗血清はヒトミオゲニン由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 50-99

**背景**

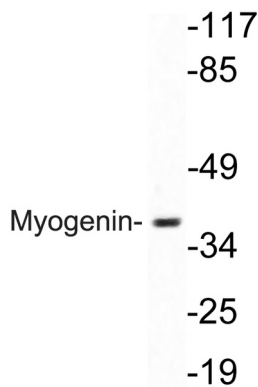
ミオジェニンは、組織培養において様々な細胞種において筋形成を誘導する筋特異的転写因子です。配列相同性によって関連するタ

ンパク質ファミリーであるヘリックス・ループ・ヘリックス (HLH) タンパク質の一員です。ミオジェニン<sup>1</sup>は機能的な骨格筋の発達に不可欠です。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: 筋分化に関与 (筋形成因子)。線維芽細胞を筋芽細胞への分化を誘導します。おそらく配列特異的な DNA 結合タンパク質です。類似性: 1 つの基本ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含みます。サブユニット: 効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要です。、

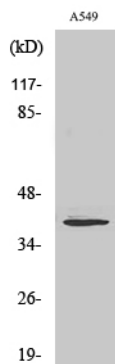
## 研究分野

-

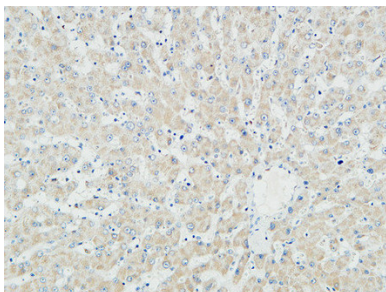
## 画像データ



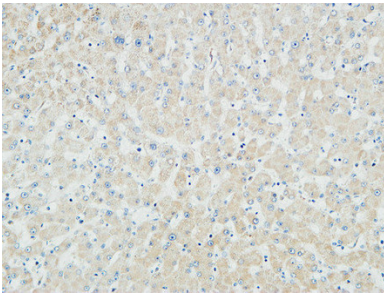
ミオジェニン抗体を使用した A549 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。



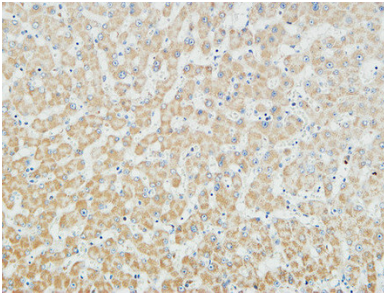
ミオジェニンポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。



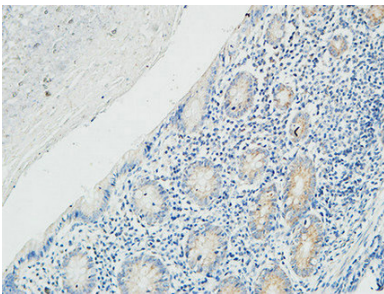
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



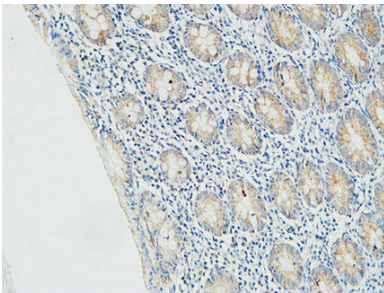
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



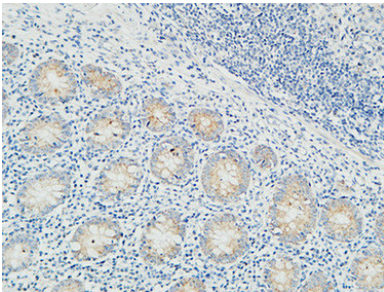
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト卵管の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト卵管の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト卵管の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。